

中学校第3学年 英語 学習指導案

天理市立福住中学校
講師 伊藤プラダハン 信美

1. 単元名 「Unit 5 Plastic Waste」

2. 単元の目標

- プレゼンテーションから、話の流れを読み取ることができる
- 読んだプレゼンテーションについて、感想や考えを伝え合うことができる

(知識及び技能)

関係代名詞 which, that が目的語となる文や後置修飾について理解している

(思考力・判断力・表現力等)

正しい順序でつなげるために、プレゼンテーションの記事を読んで、話の流れを読み取っている。

(主体的に学習に取り組む態度)

プレゼンテーションの記事を読んで、話の流れを考えようとし、自分の感想や考えを、積極的に友だちに伝えようとしている。

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、前ユニットから関係代名詞を学んで来ているが、このユニットで関係代名詞の文法把握は完結し、次に関係代名詞を使った文を読み取り、理解し、これらを使い、感想や考えを伝えられるよう取り組む。

内容としては、環境問題の中で最近注目を集めているプラスチックごみ問題を教材として取り上げる。特に海で起きているプラスチックごみの現状について、写真から読み取れることを考え、登場人物が、ゴミ問題のデータを使ってプレゼンする内容を読み取ると同時に、問題に対する関心を高める。さらに、実際に同年代の生徒が自分たちで取り組んだ自国の環境保全問題に対するアクションのプレゼンを読み取り、行動することへの関心を高めることが期待される。最後に、登場人物たちの具体的な環境保全行動を読み取ったり、世界各国の環境保全への取り組みについてのプレゼンを聞き取ったりしながら、自分が日頃取り組んでいる行動も振り返ることにより、行動することへの意識付けを行うことができる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、環境問題については、家庭や学校内での取り組みを行う必要性を学んでいるため、意識は持っており、学校においては、給食で取り組む行動は見受けられる。しかしながら、そこからの発展性は見受けられない。学年一クラス、少人数の限られた人間関係の中で、言葉で語って、互いを高め合っていく雰囲気になりづらい現状がある。中学校卒業後、彼らにとって大きく世界が広がる前段階の今、世界の同世代の活動を知り、感じたことを言葉で伝えたり、行動に結びつける意識を高めたりするという意味で、この単元に取り組む意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、英語の文法の観点から、前ユニットで既に学んだ関係代名詞 which および that が主語になる文が読めていることの確認に加え、関係代名詞 which および that が目的語になる文を使った話や会話を聞き、文の意味やプレゼンの内容を聞き取れるようになることである。

次に、YouTube を活用して、同世代の学生の演説を視聴する。

また、“Goal” のパートで、世界の同世代の学生たちが登場し、環境改善のために、自分たちで出来ることに取り組んでいる実態を知り、自分たちの現状を振り返る機会としたい。

英語を学習することで、日本語には訳されていない文献を自ら読んで情報を取ったり、ネットを通じて動画を視聴したり、海外の人々とつながることで独自に情報収集をしたりすることができることを認識させたい。また、将来的に自身の主張を他者へ伝えたい時に、英語で伝えることができると、その主張を発信できる範囲、人数は想像を超えたものとなるという想像性も膨らませたい。

また、自国の問題は、世界につながる問題であり、自分たちの小さな取り組みが、地球レベルの取り組みに広がる可能性があることを認識し、これからの活動につなげていけるようにする。

この単元の学習を通じて、世界の同年代の子どもたちの意識の高さや、行動する力を知り、自分たちの意欲の高まりや、実際の行動へつながって行く機会とし、特に、自分自身が感じたことや考えたことを人に話したりできるようになることを目指したい。

(4) ESD との関連

○本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- 相互性・・・自分の行為と環境汚染は直接つながっており、改善への取り組みも直結していること。
- 責任性・・・私たちが消費行為や廃棄行動を変えて行くことが何より大切であること

○本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・コミュニケーションを行う力

これから自分自身に取り組もうと考えている方法について、伝えたり、意見交換を行ったりすることを通じて、自分の考えの幅を広げて行く。

・進んで参加する態度

無駄な購入や、安易な廃棄行為は、国内のみならず、世界の海洋環境とつながっているため、自分が社会の一員であることの自覚を持ち、改善のための活動に参加する

○本学習を通して育てたい ESD の価値観

・自然環境や生態系保全を重視する

環境に配慮した生活を送らないと、環境を悪化させてしまい、生活環境を維持することはできない

○達成が期待される SDG s

目標 12：生産と資源

目標 14：海洋資源

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
1 関係代名詞 which, that が目的語となる文を理解している 2 後置修飾について理解している	1 プレゼンテーションの記事を読んで、話の内容を読み取っている。 2 お互いの考えを知り合うために、プレゼンテーションの記事を読んで感じたことや考えたことを適切な表現を使って伝え合っている。	1 プレゼンテーションの記事を読んで、話の流れを考えようとしている。 2 自分の感想や考えを、積極的に友だちに伝えようとしている。

5. 単元の指導計画（全9時間）

次	学習活動	学習への支援	○評価・備考
1 (1h)	ストーリー的话题を予測し、おおまかな内容をつかむ ・写真を見て、ストーリー的话题を予測する。 ・ストーリーを通して聴いて、おおまかな内容をつかむ	環境問題の現状認識ができるよう、導入の Small Talk で、教師が写真の魚（プラスチックごみまみれの魚）の気持ちになって生徒に英語で語りかける	
2 (6h)	○新出文法事項の意味・形・使い方を理解する。 （関係代名詞 which, that が目的語になる文／後置修飾を使った文） ○新出文法事項の理解を深める ・リスニング ・ペアで会話する ・会話の内容をノートに書く	○プレゼンでトピックを紹介したり資料を提示したりするときの言い方や、示されたグラフの内容が出来るよう説明を加える。 ○自国の文化を知り、それを伝えること、相手の文化を聞いて、質問すること、感じたこと、考えたことを伝えてみることで、今後、あらゆる問題解決のベースとなることを認識できるよう説明する ○バリ島の姉妹の活動の内容や、プレゼンの締めくくり方について確認する ○英語を理解することは、自分自身で、世界からの情報を文字からのみならず、映像からも獲得できることを認識できることを伝える ○世界各国の中学生による環境を守る取り組みについて、プレゼン内容を聞き取り、さまざまな活動があることを知る機会の提供をする	(ア) ① (知・技) (イ) ① (思判表)

<p>3 (2h)</p>	<p>○プレゼンテーションの記事を読んで、印象に残った文を抜き出す。</p> <p>○プレゼンテーションの記事を読んで考えたことや感じたことを伝え合う</p>	<p>○環境に対する具体的な行動を起こした中学生の提案を読み取ることにより、自分たちがどのように感じたかを問いかける</p> <p>○プレゼンの全体像を捉え、感じたことや考えたことを伝え合うことが、自身の生活の中で取り組むことや、家族、友人、学校、行政を巻き込んで行動することへの勇気につながり、さらに、未来を変えることへつながる、という気づきにつなげる。</p>	<p>(ウ)</p> <p>① (主体的) (ウ)</p> <p>② (主体的)</p>
-------------------	---	--	--

◆考察

- ・実際に同年代の海外の学生たちの意識の高さを知り、驚く様子が見られた。ペアワークの際、生活において自分たちが取り組んでいる内容を英語で聞き合ったことで、クラスメイトの取り組みや考えを知る機会となった。
- ・登場人物のプレゼンテーションを読むことに精一杯で、考えたことや感じたことを十分に伝え合う段階までは到達できなかった。しかし、小さな取り組みではあっても、行動を起こすことが大きな結果につながることもある、という事例を知れたことは生徒たちにとって意味のあることであった。